

市民ひろば

あなたがつくる広報

広報は、市民みんなの広場です。明かるく楽しい地区の話題や行事、行政に対する意見や要望、そして文芸作品など、どしどしお寄せください。この広場をみなさんとともに楽しむお祭り広場にしたいと思います。

原稿募集

- 意見、要望、コト、作文
600字以内
- 質問、わたしの自慢、地区の話題
400字以内
- 写真、マンガ、イラスト、カット
ハガキの大きさ以上
- 短歌、俳句、川柳、詩
- 笑点盲点、
- ちびっ子クイズ

▼作品には、住所、氏名、年令、職業(学生の場合は、学校、学年)をかいってください。▼メ切日・毎月未まで
▼賞金・原稿料または記念品を差しあげます。▼送り先・市役所「広報委員会」まで、

月五千円の老令年金

十五名に八月から支給



国民年金のうち老令年金の保険料納付が始まってから十年になりますが、こし四月で六十五歳になった人たちに月五千円の老令年金が支

給されることになり、このほど最初の該当者十五名に年金証書が手渡されました。

国民年金は、厚生年金、船員保険や各種の共済組合などに加入していない農業者や自営業者などを対象にして昭和三十六年にできた制度です。

老令年金は二十五年以上保険料を払い込んだものが六十五歳になるともらえることになっていましたが、制度ができた当時五十歳以上五十五歳未満のものは、十年間だけ保険料を払えば年金がもらえることになったのです。なかにはお孫さんと一諸に年金

証書を受けとるほほえましい場面もあり、約束された「お小使い年金」のようでした。なお、十年間保険料の払い込みをした人で、まだ六十五歳になら

ない人でも、年金の額を減額してもらったことができ、現在九名がもらっています。(写真は、年金証書を受け取る松下仁さん)

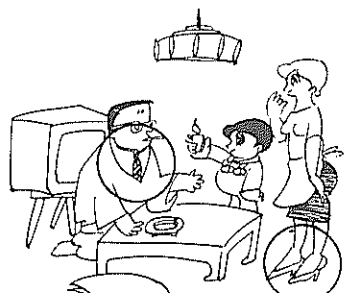


③

▼もんだい・上と下のマンガで、ちがつているところはいくつありますか。▼こたえ・①なし ②一



つ ③二つ以上、どれか一つをハガキに書いてください。▼しめきり・九月二十日、▼おくりさき・南国市東崎、南国市役所、広報委員会▼しようひん・正しいこたえのなから、十名の人に記念品を送ります。



第1回のこたえ ② 二つ

◎正しいこたえのうち、ちゅうせんで、次の十名に記念品を送ることにしました。
・門田久子(植田)・窪漆まさたか(滝本)・水口美香(阿戸)・山崎峰夫(田村)・松下遊龍(浜改田)・柳本和子(後免)・しまさきまり(浜改田)・北村健二(立田)・中沢良雄(稲生)・沖田松江(田村)

市民のひろば

詩

海

海は広いそして青い。海に出ると心がなごむ。泳げる私は一人だ。だれもないあの碧い砂を走る。私は自由だ。見ること音をきくことが私の最大なよろこびだ。夏には泳げる。みんなとあの広い海で。はだかまっ黒になるまで泳げる。ボツンと二人で海に立つ私海が好きだ。



野原

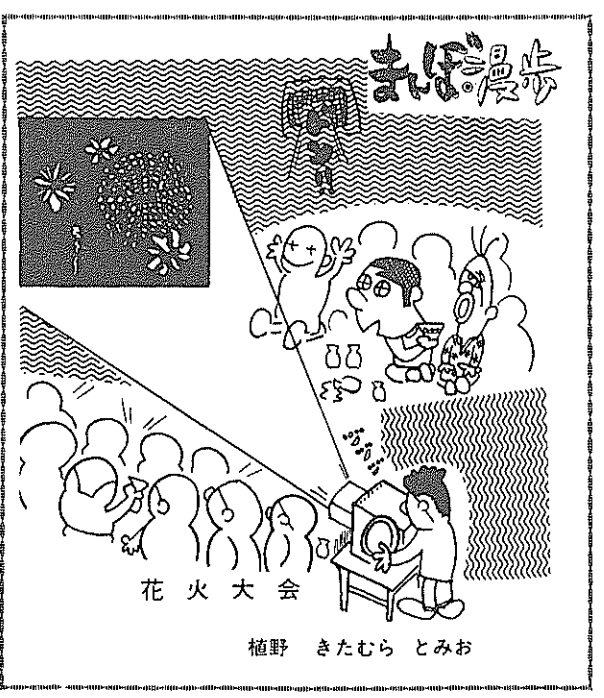
海が好きだ。あの海の風はあたたかい。性格まで変りそふな風だ。この海へ来ると。きれいな道へ進むだろ。
・小籠・西尾幸子(13歳)

さびしい時は 野原へ行こう。だれもない 野原へ行こう。小さな花のさいている。自由な 自由な 野原へ行こう。二本の足でしっかりと立って。青い空へ 言つてやる。淋しくたって。へっちゃらだ。

川柳

苦しうたって へっちゃらだ。白い雲へとどくまで。大きな声で言つてやる。淋しくたって へっちゃらだ。
・東崎・國沢尊昭(14歳)

波になる句へ逆まの知恵袋。一つ身へ稼の目を借る針の穴。兎も角も重ねて置けと五輪塔。鯖すしの頭がたらぬ迎え酒。誘惑に勝つて茨の道を行き。
・久礼田・吉本忠重



花火大会 植野 きたむら とみお

市内あちこち

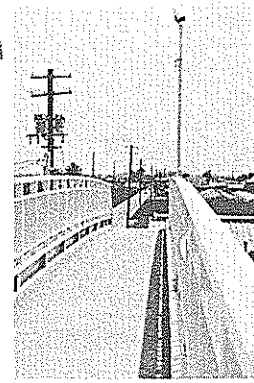


▲すがすがしい朝の空気を胸いっぱい(野中・5区)

▼花火あそびで全焼した稲吉神社(大浦)



▲天にのぼった道(田村の歩道橋)



▲ただいま満員御礼中(協和農機駐車場)



▶広報の取材中、カメラの中に飛び込んできたわんぱく三人組(大篠小プール)

▼ここでちよつとCMある裏地メーカーの撮影(里改田)

